



院内感染対策ニュース

第61号 平成30年9月19日
院内感染対策委員会

結核について知っておこう！！

皆さんは結核についてどんな病気なのか、なぜ感染してしまうのか知っていますか？結核は数十年前に多くの方が罹患し、昔は亡くなる人も多かった病気です。現在は亡くなる人は少なくなっていますが結核がなくなったわけではありません。今年当院で発生した結核（肺結核・肺外結核を含む）は4名。釧路管内でも多い状況です。今回は結核について取り上げます。

結核ってどんな病気？

結核とは抗酸菌の1種で結核菌と非結核性抗酸菌の2つの種類に分かれます。

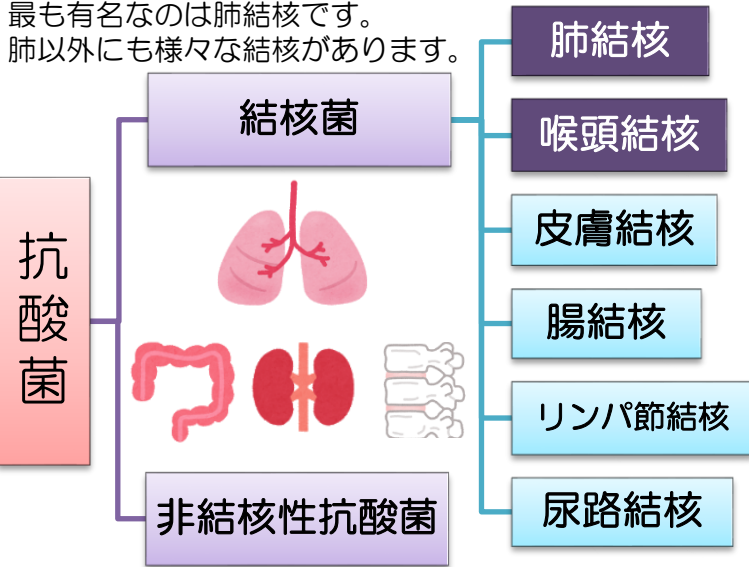
結核菌はヒト-ヒト間で感染し、ヒトに寄生してのみ生きることができます。非結核性抗酸菌はヒトにうつることはありません。一般抗菌薬は効果がなく、抗結核薬で治療します。結核菌は非常に小さく、空気中を移動、環境中で長く生きることができず、酸素がないと生きられない病原菌です。

結核は60代以上の年齢層に多いのですが、最近では20代の罹患率が増加しています。男女比ではやや男性が多い。肺結核は結核全体では最も多く、結核の8割が肺結核といわれています。

年間19000人が新たに発病し1900人程度亡くなっています。結核は過去の病気というイメージかも知れませんが決してなくなった病気ではないのです。

結核にはどんな種類があるの？

最も有名なのは肺結核です。
肺以外にも様々な結核があります。



結核の感染経路

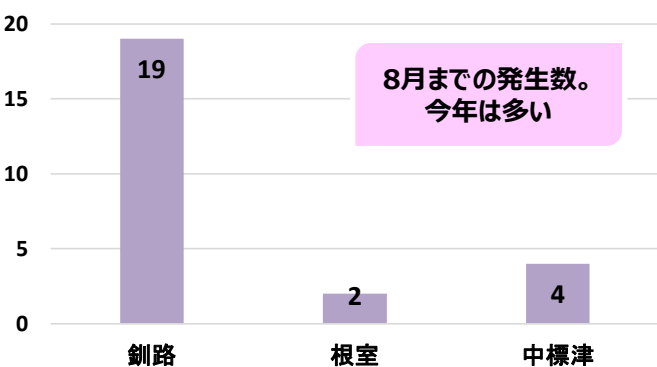
結核は結核菌を吸入することで感染します。しかし、必ずしも**感染＝発病**（ヒトにうつる）というわけではありません。感染し肺胞内で増殖し、体の組織を冒していきます。症状がすすむと咳や痰と一緒に空気中に結核菌が吐き出されるようになります。これを**排菌**といいます。こうなると**発病**となります。また、一度結核菌が体内に侵入しても自然に治癒してしまうことがあります。この場合、体の中に結核菌が潜伏（冬眠しているような状態）し、数十年後抵抗力が低下するなどの要因で結核が再燃する場合があります。

左の図のように肺・喉頭結核は空気感染対策が必要です。

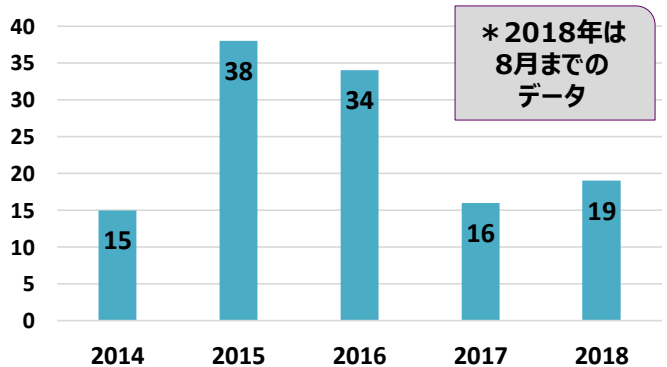
釧路管内の結核発生状況

5年間の結核の発生数を以下に示します。年度によっては少ない年もありましたが今年はずでに昨年の報告数を越えています。

2018年 釧路地区 結核報告数



年別 釧路保健所 結核報告数



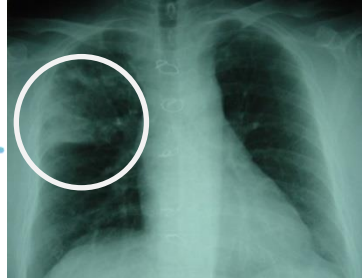


肺結核の症状は？

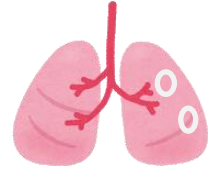
結核の症状は2週間以上続く咳、痰、発熱、体重減少、倦怠感などが主症状です。

胸部レントゲンでは空洞所見が見られることもあります。

上記の症状がある場合はすぐに病院に受診しましょう。



○の部分
が空洞の
なっている部分



肺結核の検査

結核を疑う場合、まず行うのが痰の検査です。

抗酸菌（結核菌や非結核性抗酸菌）が痰の中にいるか、いないかを調べます。この検査で抗酸菌が見つかった場合（陽性）**排菌**していることとなりますが結核菌なのか、非結核性抗酸菌なのかまではわかりません。この検査は1～2時間で結果が出ます。

抗酸菌が陽性（排菌）となった場合、**排菌**している菌が結核菌か非結核性抗酸菌かを調べます（**PCR検査**）。この検査で結核菌が陽性となると肺結核と確定されます。このPCR検査は死んだ結核菌も検出されることがあります。

他に痰の培養検査もありますが、結核菌や非結核性抗酸菌は発育が非常に遅く、結果が出るまで1ヶ月以上かかります。培養検査で陽性となると確実に結核となります。

痰の検査のほかには**胸部レントゲン**や**CT検査**も行います。レントゲンでは肺の陰影やCTでは空洞所見がわかります。また、確定診断にはなりません。採血で結核菌が体内にどうかを調べる検査もあります。T-SPOTは**血液検査**ですが、いつ結核菌が体内に入ったか鑑別することが困難で、過去に結核に罹患している場合、陽性となります。また、結核菌が体内に入ってから8週間程度経過しないと陽性になりません。結核発生による接触者健診はこの血液検査を行います。

どんなヒトが結核になりやすい？

結核は抵抗力が落ちた時にかかり易いと言われています。高齢者が多いのは免疫機能が年齢とともに低下していることや過去に結核にかかり、治癒したヒトが抵抗力が落ちて再発するというのも多いようです。



結核の治療は？

抗結核薬を服用します。標準治療は4種類の薬を2ヶ月間、その後2種類の薬を4ヶ月間服用します。**重要なことは確実に服用すること**。飲み忘れがあると抗結核薬に対する**耐性**（薬が効かなくなる）がつき治療が難しくなります。飲み忘れのないように【**DOT**】が行われます。

DOTとは**薬の飲み忘れや不規則な飲み方、服薬中断のないように第3者が服用したことを確認すること**です。結核は確実に服用することで治癒します。



*個人により抗結核薬が合わない、副作用が出る場合がありますので、定期的な検査も実施します。治療開始後、体調の変化がある場合は速やかな受診することをお勧めします。

結核と診断されたら

全ての結核の場合、排菌の有無に関らず**保健所への届出**が必要です。**感染症法**代12条に則り、**直ちに発生届出を提出**しなければなりません。

総務課や内科外来に書類がありますので記載後スキャンし、総務課へ提出願います。

肺結核の場合、空気感染しますので**入院**が必要です。

当院は陰圧個室を有していないため市内の別の2類感染症対応可能病院への転院となります。

肺外結核の場合は当院での内服治療が可能です。保健所（行政）と協力して患者さんや家族が困らないように病院でも様々なお手伝いをさせていただきます。



結核が疑われたら

結核は空気感染対策が必要です。通常のマスクではなく、**N95マスク**を使用します。**患者さんはサージカルマスク**を装着します。患者さんの病室に入る前にN95マスクを装着し、病室の外に出てからマスクを外します。

結核と確定していなくても抗酸菌塗沫検査が陽性的場合は結核であることを否定できないので空気感染対策が必要です。N95マスクはしっかり顔にフィットしていないといけませんので病室の入室する前に必ずシールチェックをして息漏れがないか確認しましょう。

結核は適切な検査・診断・治療により感染の拡大を防止できます。抵抗力を高めて感染症に負けない体を作りましょう！

次回も
お楽しみに！

